

新規採用教員へのインタビュー



佐藤 美織 さとう みおり

井原市立出部小学校 教諭
(令和7年度採用)

自己紹介

岡山県出身です。令和7年度、小学校教諭として採用されました。3年生36人を担任しています。中学校ではバレーボール部、高校ではソフトボール部に所属していました。

Q 教員を目指した理由を教えてください。

小さい頃から人と関わる仕事に興味がありました。教員を目指すようになったのは、小学校と中学校の時の担任の先生の影響が大きいです。

小学校5年生の時の担任の先生は、ユーモアがあり分かりやすい授業をしてくださる先生でした。休み時間には一緒に思い切り遊んでくださるなど、いつも楽しそうに過ごされている先生の姿を見て、教員の仕事に憧れをもつようになりました。

中学校で3年間担任をしてくださった先生は、「先生になり

たい」という私の夢を後押ししてくださいました。私は、勉強や部活動、学校行事など、さまざまなことにバランスよく取り組むことが好きな生徒でした。その姿を見て、「きつと小学校の先生が向いているよ」と声をかけてくださいました。当時、私は女子バレーボール部に所属していて、その先生は男子バレーボール部の顧問をされていました。授業から部活動まで、学校生活全体を見てくださっていた先生からの言葉がきっかけで、「小学校の先生」を目指すようになりました。

その後、県外の教育学部へ進学し、教育実習では小学校1年生を担当しました。また、ボランティアとして約3週間、地元小学校で学習支援等にも携わらせていただきました。教育実習とボランティアの経験を通して子どもたちと過ごす日々の楽

しさや成長を支えるやりがいを実感し、岡山県の教員採用試験を受験することを決めました。



授業の様子

Q 教員採用試験の対策について教えてください。

私は県外の大学に通っていたため、岡山県の情報を得にくい状況にありました。そのため、過去に岡山県を受験された先輩方が残してくださった資料を参考にしながら準備を進めました。

また、面接対策では、自分の軸を持つことを意識して取り組みました。大学4年生の春頃から受験直前まで、ほぼ毎日大学

の先生に面接練習にご協力いただき、自分の考えをしっかりと整理して採用試験に臨みました。

Q 児童との関わり方で大切にしていることはありますか。

子どもたちと会話をする時は、いつも笑顔で明るく反応を返すことを心がけています。また、困っていても自分から言い出せない子もいるため、日々の様子をよく観察し、小さな変化に気付けるよう意識しています。クラスに入ってくださっている支援員の方ともこまめに情報を共有し、支援員の方から変化を教えてくださいただくことも多くあります。

クラスの子どもたちは、元気いっぱいとても素直です。みんなのために自分から進んで手伝えることのできる優しさももっています。その良さを伸ばしながら、勉強も遊びも楽しんでほしいと思っています。そして、人を認め、思いやりをもって生活できる高学年へと成長していったら嬉しいです。



秋の旅行の様子

Q 教員の仕事のやりがいを見せてください。

子どもたちが「分かった」「できるようになった」と成長した姿を見ることに、大きなやりがいを感じます。授業の最後に振り返りを書くのですが、その時に鉛筆がしつかり動いていると子どもたちの中で気付いたことがあったのだなど、とても嬉しく思います。

赴任した当初、子どもたちは3年生になったばかりで、自分の気持ちを聞いてほしいという

思いが強く、5秒に1回は「先生！」と声をかけてくれるほどでした。そこで、「聞くときはしつかり聞く」「質問があるときも、まず相手の話を最後まで聞く」「移動教室では絶対におしゃべりをしない」など、学校生活の基本を粘り強く伝えました。その積み重ねの結果、今では周りの様子を見ながら落ち着いて行動できるようになりました。給食の配膳でも、人数が多いため時間がかかっていましたが、スムーズにできるようになり、片付けも率先して行ってくれます。子どもたちの主体性がぐんと伸びたことを実感しています。

一日の終わりに、子どもたちが笑顔で帰っていく姿を見ることも、大きな励みになっています。

Q 職場の環境はどうか。

職員室はとても活気があります。先生方がいつも温かく声をかけてくださるので、職員室に戻るとホッとします。本校は若

い先生が多く、プライベートと一緒に出かけられることもあります。ちょっとした相談もしやすく、安心して働ける環境だと感じています。

Q 今後の抱負を教えてください。

今後は、授業力をさらに伸ばしていきたいと考えています。現在のクラスの子どもたちは勉強に前向きな姿勢がありますが、学年が変わったり、子どもたちの実態が変わったりすると、より一層、技術や知識、特別支援の視点が必要になると思います。新採用研修の日には、先生方にお願ひして授業を見学させていただき、日々学びを深めています。

また、個別の支援が必要な子どもに適切な手立てを行いながら、クラス全体を動かしていく力も伸ばしていきたいです。子どもたち一人一人にとって、より良い学級づくりができる教員を目指していきたいです。

Q 最後に、是非伝えたいことはありますか。

両親も教員をしており、仕事の大変さについて話を聞くこともありました。実際に勤めてみて、行事が重なる時など、大変だと感じる場面もありましたが、それ以上に子どもたちの成長を支えることに大きなやりがいを感じています。子どもたちの様子は毎日違っていて、同じ日はありません。子どもたちの笑顔を見るたび、「教員になって良かった」と思います。



学習発表会の様子